

就職について考えて欲しいこと

1. なぜ働くか

皆なぜ働くのでしょうか。この様な事を考えたことがありますか。単純に言えば、働いて報酬を得るためです。ここで、報酬と言う言い方をしましたが、これは給料と言う狭い意味ではありません。仕事をしたことで、他の人から感謝されたり、自分の能力が向上したりするようなことも、報酬の一つになります。要するに、自分のためになることを報酬と考えるのです。

ただし、金銭的な報酬も大切です。皆さんが金銭的な報酬を得ると言うことは、それだけ世の中で生産的なことをしていると言うことです。世の中で、給与を得ている人が多くなると言うことは、それだけ税金の収入が増えることになり、国の政治もうまくいくようになります。そして、自分自身で稼いだお金で、人を助けることができますようになります。遊ぶ場合にも、自分で稼いだお金で遊ぶことは、親など他人のお金で遊ぶ場合と比べて、満足感が深くなります。

この様に自分で稼ぐことができるようになるのが、一人前と言われる第一歩です。言い換えると

「働くと言うことは大人になること。」

自分で稼いだお金を、自分の責任で使う。これが大人の一つの条件です。

もう一つ、皆さんがあまり意識していないかもしれない、働くことの大切さがあります。それは、働く成果を他人に感謝してもらおう経験です。

「人は、他の人に認められることで、心の安らぎを得て成長する。」

仕事においては、他の人と協力することが多くあります。その時、彼らが求めているモノをきちんと与えることで、承認や感謝を得ることがあります。この様な経験は、人間に満足感と安心感を与えます。人間は、人の感謝で育つこともあると言うことを、覚えておくところから先きと役立ちます。

次に、同じ働くに場合にも、仕事を通じて自分を成長させるような、仕事を選ぶべきです。正規雇用を求めると言う話がありますが、なぜかわかりますか。これは後で述べますが、正規雇用には社員を会社で育てると言う意味もあります。そのためには、少し難しい目の仕事のチャレンジし、失敗しながら成長することもあります。ただし、自分の訓練は自分で行うと言う強い道を選ぶ方法もあります。会社の与える訓練など関係ないと強く言える人は、自分で道を選んでください。

さて、学校を卒業しても、広い意味での勉強を続けることは大切です。60歳の定年まで、常に新しいことに対応できる力を維持するためには、常に勉強を続ける必要があります。

2. 会社とは何か

会社の使命について、色々な見方がありますが、私の意見では以下の通りです。

「会社はお客様の要求する、物やサービスを安定的に供給するためにある。」

まず会社は、お客様の求めるモノを供給しないとはいけません。自分がいくら良いと思っても、お客様の求めているモノを作るわけにはいきません。そして、適切な利益を得る必要があります。人によっては、

「会社は営利を求めるからけしからん。無償のボランティアの方が尊い。」

と言う人がいるかもしれません。確かに、無償の奉仕の尊さは認めますが、不安定な仕事なら、結局サービスを失うことになることも多くあります。例えば、老人の通院の送り迎えを、ボランティアサービスで対応している町があります。この町のタクシー業界は、仕事が減って人員と車両を削減しました。さて、将来のことを考えてみましょう。ボランティアの場合は、個人の善意に頼る部分が大きく、その個人が対応できなくなった時、後継者の養成ができるかという問題があります。また、タクシー台数が減ったので、近隣の大きな都市の業者に仕事を奪われました。一度その町でタクシーが無いことを経験した人は、その街でタクシーを求めるのが難しいと思い、近隣都市からタクシーを飛ばすことになります。

この様に、『継続的に安定して供給する』ことが、会社の重大な使命です。このためには、単にモノを作るだけでなく、その後のメンテナンスなどのサービスをきちんと行うのが責任ある会社です。

なお、会社が利益を得るためには、他の組織でできないような、有利な点を持っていないといけません。例えば以下のようなものです。

- (1) 他の会社が持てないような設備を持つ
- (2) 他の会社ではできないような技術力がある
- (3) 他の会社にはできない技を持つ社員がいる
- (4) 24時間のサポート体制を持つ

会社はこの様な強みを強化するための営みを、継続して行っているのです。特に、上の(2),(3)は『人』に依存する要素があります。そのような会社では、『技術・技能の伝承』のための、社員の教育が大切です。正社員採用の必要性は、このような場合に高くなります。特に、『技術』は、IT化して人間の手を離れる場合もありますが、『技能』は人間の手に残ることが多いことも知っておいてください。

3. 就職は求人側と求職者側のマッチング

就職とは、仕事を求めている人材を、会社側が採用することです。ここで大切なことは、

「採用側が必要な人材を採用する。」

とすることです。学校の場合には、成績が良い順で入学できるという制度でした。つまり、

「良い成績なら合格する。」

とすることでした。しかし就職の場合は、会社側が必要としている人材を採用するのであって、単なる成績の良し悪しだけでは、決まりません。もちろん、ある時の試験の成績が良ければそれだけで、就職が決まると言うものでもありません。確かに、一部公務員試験等は、1回の試験で決まる場合もありますが、一般的な会社の採用は、色々な面を見ます。

さて、ここで会社はどのような面を見ているのでしょうか。会社ごとにいろいろな事情があり、一言で言えるモノではありません。しかし、前に書いた会社の特徴を考えると、一般的な話はできます。とりあえず会社の立場で考えてみましょう。

まず、正社員で採用する理由を考えてみましょう。まず正社員で採用する会社側の利点を考えてみましょう。正社員は、定年まで継続的に会社に勤務することを期待されています。従って、会社としても、その人に教育投資等を思い切って行うことができます。つまり、『技術・技能の伝承』のために、その人に投資することができます。または、他の会社に対して優位を保てるような能力や、資格を持っている人も、他の会社に取られないように、正社員とする場合もあります。

これを、言い換えると、採用したくなる人材の条件が見えてきます。

- (1) 技術または技能の伝承対象として教える価値のある人材
教えたくなるような人材
教えやすそうな人材
- (2) その人がいることで他社に優位になれる人材
現在既に技術・技能で一人前となっている
特別な資格を持っている

さて皆さんは、まだ学生なので上の(2)の現在の力でなく、(1)の将来の可能性で採用されることが、多いと思います。そこで、これからは『将来の可能性』を示すことを重点に説明します。

なお、単に現在の仕事をこなす力があるだけなら、正社員でなく短期契約の社員でも良いということになります。現在の力も大切ですが、今後とも成長する可能性が、正社員採用の条件です。

4. 求められる人材になるには

今までの話で、会社が欲しがらる人材のイメージが少しわかったと思います。もう一度繰り返しますが、会社が正社員採用したいのは、

「正社員で、継続雇用して鍛えることで、さらに能力を発揮する。」

様に感じた人材が正社員として採用されるのです。このために、必要な条件を挙げてみると以下ようになります。

- (1) 未完成だが、将来の成長可能性を感じさせるものがある人材
 - (1-1) 努力する力と努力した経験がある
 - (1-2) 会社で厳しくしても訓練に耐える
- (2) 教育する場合に手間がかかりそうにない人材
 - (2-1) 対人能力がそれなりにあり素直に指導者に従う
 - (2-2) 基礎知識・スキルが備わっている
 - (2-3) 安全に対するセンスがある、自らと他人を守るセンスがある
- (3) 会社の価値観に合わせることができる人材
 - (3-1) 学校的な思考法から抜け出ることができる
 - (3-2) 技術的思考と人間的要素の切り替えができる
 - (3-3) 納期意識・品質意識を身につけることができる

(1)は、学生時代に色々なことで、努力した経験が活きると思います。勉強でも良いし、部活でも良いです。今までできなかったことを、自分で工夫してどうすればできるようになったか、説明できるようにしましょう。その努力した経験が今後とも役に立ちます。これについては、次の章でもう一度詳しく説明します。

(2)については、会社側の立場を想像すると、理解できると思います。採用する時に、教える時に、手間がかからない人を選ぶ気持ちに、納得がいくでしょう。まずこの様に採用選考する人の立場を考えるのが大切です。ただし、大げさなことを考えなくても、簡単なことから始めればよいのです。以下のような項目を、実行しているだけでも、採用者側は好感を持ちます。

- ・ 挨拶がきちんとできる
「会社訪問や試験の時、出会った人にはみな『おはようございます』等、元気よく挨拶する。」これだけでも好感をもたれます。こうなることが、指導を受けやすくする一つの条件です。
- ・ 人の話を良く聞く
「説明を受ける時熱心にメモをする。そしてしっかり質問する。」この様な姿勢が身につけていると、指導する場合に、一度言えば理解してくれると期待できます。

- ルールを守る
「会社訪問や試験の時、右側通行をきちんとしている。」これだけでも会社側は安心します。ルールを良く守る人は、事故を起こす可能性が少ない。会社にとって安全は非常に大切なことです。
- 基礎的な知識スキルが身についている
これは、ペーパーテストで試験する項目です。

今までの話では、最初の3項目は当たり前のことと思うかもしれませんが。しかしそれが実行できるということが大切です。「知っていることと出来ると言うことは違う」これを自分のモノとして、実行できることを少しでも増やしてください。

また、ペーパーテストの項目が一つだけと言うことにも注目してください。(3)の『会社の価値観』と言う言葉には、『学校的な価値観=ペーパーテスト万能』と言うことから、『何時も見ている』と言う意味があります。採用試験の場合でも、面接の場面だけでなく、試験場に来るまでの道のり、帰り道での姿勢なども見られているものと考えてください。

さらに、採用担当者が学校を訪問する時は、学校の中だけでなく色々なことを見つるということも知っておいてください。例えば、下校時の訪問なら、近所の駅でその学校の生徒が電車を待っている姿勢なども、チェック項目です。例えば、駅のホームの地べたにだらしなく座り込んでいる。このような状況を見たら、そこの学校の生徒を採用するか、腰が引けてきます。そして、学内でも生徒の姿勢を見ています。歩く姿勢で指先がきちんと伸びているか、すれ違った時会釈するか、このようなこともチェックされます。

さらに掲示物なども見えています。例えば、資格試験の募集でも、低いレベルの資格しか募集していないと、チャレンジ精神が無いと言う風に見られます。

なお、資格に関しては、必要条件として生きることはあるが、十分条件として決まることは少ない、ということを知っておいてください。言い換えると、資格がないと言って足切りされることがあっても、資格があるから採用が決まるというものではありません。

最後に大切なことは、皆さんが持っている力を、採用側に知ってもらおうと言うことが大切と言うことを知って欲しいです。自分に良いものがあったとしても、評価されないと採用につながりません。そのためには、見える形にすることが大切です。対人関係が良いと言っても、なかなか見えません。そこで「挨拶がきちんとできる」と言う目に見える形が大切です。

5. 個別訓練項目

それでは、求められる人間になるために、自分をどのように鍛えればよいのか考えていきましょう。

5-0 基本的な姿勢

まず当たり前のことですが、決められたことをきちんと守る、毎日の生活習慣が身につけていることが大切です。朝決められた時間にきちんと登校する。先生の出した課題を期限どおりにきちんと提出する。これが約束を守る基本です。このような行動を毎日行うように、心がけてください。これができるようになるためには、個々のスキルをきちんと身

に付けることが大切です。例えば課題を作るためにも、決められた時間で終わるようにしないといけません。そのためには、自分の技をきちんと身に付けることが大切です。地道な反復練習を行うことで確実さとスピードを身に付けるようにしてください。

さてその上で、物事はなぜそうなっているのか、本質を考えることが大切です。今まで勉強した知識と経験を活用し、なぜそうなっているのか常に考えましょう。そして、疑問に思ったこと、改善すべきと思ったことは、積極的に先輩や上役に質問し、提案しましょう。但し、このとき大切なことは、自分が未熟であると言うことを知った上で、提案するのです。自分の気がつかないほかの事情で、あなたの提案が受け入れられないこともあります。そのような時は謙虚に受け止めて、もう一度考え直してください。自分の提案が受け入れられなくても、自分の不備を素直に反省し、もう一步踏み込んで理解していく。そして実現にいたるまで努力する。このような行動を積み重ねることで、人間として成長していくのです。

5-1 勉強の基本スキル

必要なスキルの訓練で、一番身近にあるものは、日々の学校の生活です。個々から訓練すべきことを考えて見ましょう。

まず大切なことは、学校の授業をきちんと受けるということです。そこで、先生の言うことをきちんと聞く、それをノートにまとめて書いていく、このような訓練を毎日続けると、人の言うことを聞く、文章をきちんと書く、基本スキルが身につきます。そして、ノートは、残ります。後で読み返すと、自分の成長が確認できるでしょう。

また、ノートには、自分で書き加えることができます。昔学んだことに、今の知識を追加するために書き込みする。これが、自分の成長を、形にすることです。

状況によっては、ノートを見せることで、自分の成長を他の人に見せることもできます。

5-2 PDCA の実行

会社生活では、PDCA のサイクルを回すとよく言います。

PLAN(計画)→DO(実行)→CHECK(確認)→ACTION(改善)→次の計画…

まず計画を立てます。そして実行します。その時、計画を実行できなかったこともあるでしょう。その状況を確認し、なぜ実行できなかったか理由を考えてみましょう。根本原因が分かれば、改善を実行します。こうした行動を積み重ねることで、成長するのです。

これを、個人で行うこともできます。まず手帳か、日記を持ちます。そこで、毎日の計画を書き、それが実行できたか、できなかったかを確認する。そして出来なかったときにその理由を考える。そして、どうしたら、次はできるようになるか考える。これは立派なPDCA サイクルです。この様な習慣があれば、会社生活でも役に立ちます。

なお、必ず達成できるような甘い計画を立てることは、チャレンジ精神を失うことで、良いことではありません。逆に、失敗自体も致命的な失敗以外は、あまり気にすることはありません。ただ、同じ失敗を繰り返してはいけません。失敗した時、原因を追究し、自

分で対策を考えることは、成長したと言うことです。一度も失敗せず、低いレベルにとどまるより、チャレンジし、失敗して反省することで成長することが、会社の求めている人材になります。ただし、絶対してはいけないことはあります。例えば、安全を脅かすようなことです。そのような点もわきまえないといけません。

5-3 論理的な考え方

人に自分に考えを理解してもらうためには、論理的に考えて、伝えることが大切です。さて、論理的な考え方にも、色々なレベルがあります。そこで共通することは、

根拠から、結論を皆が納得する方法で導き出す

と言うことです。

例えば

「人間は死ぬものである。坂本龍馬は人間である。ゆえに、坂本龍馬は死ぬ。」

と言うのは、昔からある演繹論理の三段論法の図式に、きちんと当てはまります。

大前提：AならばBである。

小前提：CはAである。

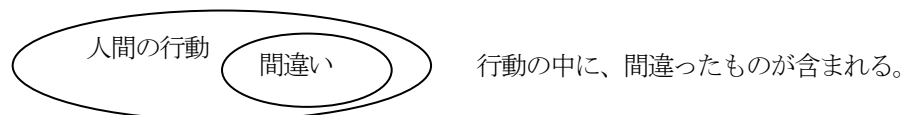
結論は：CはBである。

これが使いこなせるためには、大前提となる一般知識と、特定の状況を識別する小前提の使い方を、理解していないといけません。例えば、次のような文書の間違いを考えましょう。

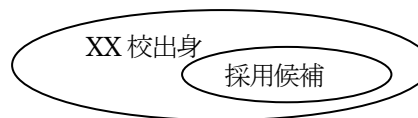
「人間は間違ふものである。菅直人は人間である。ゆえに、菅直人は間違ふ。」

これは上の図式とほとんど同じです。しかし、「人間は間違ふ」と言う表現には、「人間は(時により)間違ふ」という意味が隠されています。言い換えると、「人間は常に間違ふとは限らない」です。一方、「菅直人は間違ふ」の裏には、「菅直人は(常に)間違ふ」と言う意味合いが含まれています。皆さんの知っている『菅直人』と言う人が、常に間違ったことばかりしているように見えても、上の文章が論理的に正しいとはいえません。

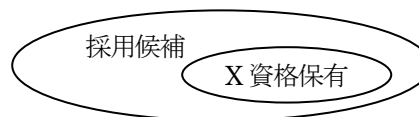
このような時、以下のような図で考えることが大切です。



これは、数学で習う集合の話の、ベン図の応用です。また必要条件、十分条件と言う話も知っておいてください。



上の図で書いたことは、「XX 校出身」と言うことが、「採用候補」になる必要条件ということです。例えば、足きり条件のようなものです。つまり、XX 校出身でない限り、採用の候補にも挙がりません。しかし、実際はその中で、必要な人を選ぶと言うことです。だから、XX 校出身と言うことは、採用される十分条件にはなりません。



一方、ある会社が仕事をするために、ある資格保有者が絶対必要と言う場合を考えます。この場合、他に資格保有の応募者が居なければ、その資格保有者は採用が決まります。この場合は、その資格保有が採用のための十分条件となります。

ただし、資格保有者が既に法律で定める人数だけ足りている場合には、その資格保有は十分条件となりません。

このように、論理的に考えると言うことは、一般原則を現実の状況に上手く合わせて、適当な前提から結論を得ると言うことです。このような考え方になれるためには、文章で出題されている問題集を解くのも有効です。

以上